

守山まるごと活性化プラン検討委員会(第3回全体会議)

平成 25 年 12 月 16 日(月)

午後7時 30 分から 吉身会館にて

開 会

あいさつ (布野委員長)

議 事(協議事項)

(1) 学区毎のプロジェクト(具体策)について

※ 5つ程度のプロジェクトに絞り込んだものに対する意見交換

- ・ プロジェクト (案) に対する感想や意見
- ・ 課題だと感じるところ (対策のアイデア) について
- ・ より推進するための意見

など

(2) まるごと活性化プランの内容構成について

(3) 今後の検討および策定の進め方について

その他(事務連絡など)

(1) 学区毎のプロジェクト（具体策）

※ 各学区の話合いにより5程度にしぼった、プロジェクト（案）

守山学区まるごと活性化プラン

人がつながり、自然と歴史を大切にするまち

プロジェクトA 自治会魅力向上プロジェクト

取組1 自治会運営・地域連携体制の見直し

- ・自治会を考える会（仮称）を立ち上げ、自治会の運営方法の改善や地域連携体制（学区における取組内容等）の見直しを図る
- ・自治会活動の横断化と連携

取組2 誰もが参加できる自治会活動づくり

- ・新住民に自治会活動を情報発信し、自治会への周知と理解を促進
- ・子ども同士のつながりから親世代へと、人のつながりを拡大し、共助の取組やまちづくりへの参加につなげる方法の研究と実践（自治会活動参加のきっかけをつくる）

取組3 地域による子育て支援

- ・子育て環境づくりで、守山学区を「子育て推進地域」に指定
- ・学校では教えてくれない地域のことや言い伝え等を地域の子ども達に教える寺子屋の復活

取組4 安全・安心活動の強化

- ・命のバトン制度の普及など住民によるセーフティネットの構築
- ・スクールガードやパトロールの強化
- ・通学路など危険な道路を住民目線で点検し、行政と一体となって対策に取り組む

プロジェクトB 守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト

取組1 伊勢遺跡を活用した「わがまち」への誇りや愛郷心の醸成

- ・建物の復元とアクセス道路の整備を含む区画整理事業の実施
- ・地元住民が学区の歴史や伝統文化を知る努力をする
- ・市内の学校で地元の歴史を学習する
- ・伊勢遺跡、中山道、卑弥呼を積極的に活用し、市外に情報発信（認知度を高める）

取組2 歴史資産や伝統行事の活用・情報発信

- ・宿場町や江戸情緒を意識した景観づくりやイベントを計画

- ・火まつりなどの無形文化財の継承支援のために、祭の小道具類を保管展示するとともに見学者に案内や説明する常設展示を検討
- ・中山道周辺の古民家や歴史的な景観を守る制度の効果的な運用

取組3 中山道案内ボランティアの向上

- ・中山道案内ボランティアの拡充を推進
- ・もてなす意識、サービスのさらなる向上、案内範囲の拡大等に挑戦

プロジェクトC JR東側活性化プロジェクト

取組1 活動拠点の整備

- ・高齢者や子育て世代、若手などが集い、まちづくりへの関心（意識）や関わるきっかけづくりの拠点となる場所づくり（空家や企業の施設の活用などを研究）

取組2 伊勢遺跡を活用した東西の交流

- ・伊勢遺跡を有効活用し隣接する周辺地域を巻き込んだ交流事業などを企画実施
- ・伊勢遺跡の保存整備に関する施設整備の際にも周辺地域を巻き込む工夫をする（取組1活動拠点の整備についても配慮）

取組3 地元企業（工場）と連携したまちづくりの実施

- ・地元の工場と連携した防災訓練等のまちづくり活動の実施

プロジェクトD 水とホテルから輝くプロジェクト

取組1 水とホテルを中心としたまちづくり活動

- ・住民の地道なボランティア活動を知ること、地域の水や自然、自分たちのまちを守る意識を醸成
- ・水に親しむことを意識したイベントや活動の実施（魚釣り、美化活動、生態系の維持活動）

取組2 「ホテルール」の作成（ホテル保護、水環境保全のためのルールづくり）

- ・ホテル保護・水環境保全のためのルールづくり（タバコ喫煙の規制や除草剤散布等の規制など）
- ・草刈りや河川清掃などの自治会での活動時期を調整する
- ・小学校や子ども会でホテルの生態を学習し、ホテルを通じてゴミを捨てない動機付けをする
- ・ホテルの森資料館の協力を得て、上記の内容を盛り込んだ「ホテルール」を取りまとめ、広く発信する

取組3 ホタル保護や水環境保全に対する積極的な意識醸成

- ・ホタル条例について地域住民へ情報発信

☆ H26年度からまず初めに進めていく取組

- 「自治会魅力向上プロジェクト」を推進します。自治会を考える会（仮称）を立ち上げ、自治会の運営方法の改善や地域連携体制（学区における取組内容等）の見直しについて検討をします。併せて学区における、まちづくりの組織体制や役割などを改善します。
- 「水とホタルから輝くプロジェクト」に取り組み、それぞれの自治会におけるホタル保護に関する取組を実施します。また、地域の子ども達等を対象とした水に親しむ活動を実施し、美しい水環境の保全意識の醸成に取り組みます。
- 伊勢遺跡や中山道など豊富な歴史資源を活かす為に推進する「守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト」や「JR東側活性化プロジェクト」についても守山学区の重要課題として位置づけ、それぞれの周辺自治会の住民が中心となって推進します。

[現在、市が取り組んでいる施策等]

- ・ 公民館社会教育事業
- ・ 守山市ボランティア観光ガイド協会
- ・ 史跡伊勢遺跡保存管理計画
- ・ 伊勢遺跡保存整備活用委員会
- ・ 守山市ホタル条例、規則
- ・ ほたる河川〔指定保護区域、特別保護区域〕の指定
- ・ ほたるに配慮した河川整備
- ・ ほたるパーク&ウォーク
- ・ 小学校における地域学習
- ・ 守山市景観条例
- ・ ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例（県）
- ・ 命のバトン
- ・ 守山市「わ」で輝く自治会応援報償金
- ・ 中山道守山宿街並み景観づくり補助金
- ・ 守山市路上喫煙の防止に関する条例
- ・ 守山市中心市街地活性化基本計画

など

吉身学区まるごと活性化プラン

吉身は目指します 自然・歴史・文化を 次世代につなげるまち

プロジェクトA **ホタルを守ろうプロジェクト**

取組1 ホタルを守る（自然を大切にす）ための仕組みづくり

- ・ イベントや勉強会のほか、ごみ拾い等も行う
- ・ ホタルを守るクラブ活動に取り組み、活動結果を夏祭りや自治会館等で展示する
- ・ 自動車のライトが川に影響しないようにパネル設置等を行う
- ・ ホタルのえさ（カワナ）を保全する
- ・ 川の法面に土を残す工法を採用する
- ・ 自然を守るルール等について研究する

取組2 ホタル祭りの開催

- ・ ホタルが飛ぶ時期に各自治会等で住民手作りの交流イベントを開催する
- ・ ホタル鑑賞のタベや鑑賞ツアーを実施する

取組3 自然に親しむイベントの開催

- ・ 川遊びや魚つかみ、水生生物学習会などの開催

取組4 水辺の遊歩道（ホタルロード）づくり

取組5 自然に親しむ環境づくり

- ・ 河川沿いの緑地の確保（ホタルの保護、遊歩道整備など）

取組6 開発と保全のバランスをとる

- ・ 民間開発が進む一方で自然を保全する意識（配慮）を醸成する

プロジェクトB **吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト**

取組1 歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり

- ・ 住民が地域の歴史を知る（町名の由来を調べる）
- ・ 住民が訪問者にまちを紹介できるようにする（吉身まち歩きコースの設定やマップ作成、まち歩きイベントに参加しながら、少しでも話ができるようになる）
- ・ 小学校の先生等に地域の歴史を知ってもらう（小学生への啓蒙活動を行う）

- ・紙芝居を作成する

取組 2 下之郷遺跡を活用した住民主体の憩いの場づくり

- ・下之郷遺跡の既存施設を有効活用し、住民が主体となったまちづくり拠点としての活用方法を検討

取組 3 下之郷遺跡を軸とした交流活動の活性化

- ・下之郷遺跡だけではなく、他の史跡についても併せて有効活用し、住民の憩いの空間や交流の機会をつくる取組を実施する（まち歩きやフリーマーケットなど）

取組 4 吉身まちあるきコースの設定、マップの制作・配布

- ・まちを探検する
- ・コースに名前をつける
- ・歴史資源を知ってもらうコースだけではなく、健康づくりで活用できるコースについても設定する
- ・コースを明示したマップを制作する毎に紹介する

取組 5 吉身まちあるきイベントなどの開催

- ・若い人に参加してもらうための仕組みづくりを行う
- ・NPOの立ち上げなどの継続するための仕組みづくりを行う
- ・成功例について紹介してもらう
- ・他のイベント（火祭りなど）についても活用する（祭り観賞まちあるきなど）

プロジェクトC 中山道を軸とした観光促進プロジェクト

取組 1 中山道ウォーキングコースの設定、マップの制作・配布

- ・もっと観光客が来るように情報発信する
- ・インターネットで情報発信する

取組 2 中山道ウォーキングイベントなどの開催

- ・JRや旅行会社と連携し取り上げてもらう
- ・イベントでは市や地域の商業者とも連携することを意識する
- ・住民全員がガイドになれるようにする
- ・自治会で中山道関連の歴史について学ぶ機会を提供する

プロジェクトD 祭りだ！わっしょいプロジェクト

取組1 学区民のつどいのリニューアル

- ・子どもが参加できるプログラムを構築する

取組2 伝統ある行事を盛り上げる

- ・祭りの世話役と話し合い、サポートできることを把握する
- ・夜店などの出店を行う

取組3 イベントの開催

- ・地区対抗別運動会を開催する
- ・定期的にイベントを開催する（季節毎、季節の変わり目）
- ・情報発信を徹底する（内容（日時、場所など）の明確化、自治会を通じたの周知）
- ・当番制での開催

取組4 吉身の行事・イベントの情報発信

- ・スタンプラリーを開催する

取組5 子どもが楽しく遊べる場づくり

- ・日よけや水辺を整備する
- ・ルールを徹底する

☆ H26 年度からまず初めに進めていく取組

- ホタルや豊富な史跡を活用したプロジェクト（「ホタルを守ろうプロジェクト」「吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト」「中山道を軸とした観光促進プロジェクト」「祭だ！わっしょいプロジェクト」）を推進し、住民同士の交流や地域活動の担い手不足の解決を図ります。それぞれの地域住民が中心となって交流イベントや学習会また、まちあるきコースの設定やマップの制作を学区の取組として実施することで、住民がまちを知る、また健康推進の後押しをします。
- 「ホタルを守ろうプロジェクト」では、ホタルの幼虫を育てる取組やホタル観賞会、ホタルを意識した河川清掃など各自治会での取組を始め、学区からの働きかけによって、各自治会における自然保護意識の醸成に取組みます。
- 「吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト」では、下之郷遺跡など市を代表する歴史資源を有効活用するためにも、既存グループや地元自治会との連携を図りながら、学区の取組としてまち歩きイベント等の開催について取組みます。

[現在、市が取り組んでいる施策等]

- ・ 公民館社会教育事業
- ・ 守山市ボランティア観光ガイド協会
- ・ 史跡下之郷遺跡保存管理計画
- ・ 下之郷遺跡保存整備活用委員会
- ・ 守山市ホタル条例、規則
- ・ ほたる河川〔指定保護区域、特別保護区域〕の指定
- ・ ほたるに配慮した河川整備
- ・ ほたるパーク&ウォーク
- ・ 小学校における地域学習
- ・ 守山市景観条例
- ・ ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例（県）
- ・ 守山市「わ」で輝く自治会応援報償金
- ・ 守山市中心市街地活性化基本計画

など

人と水と歴史がつながる生成（きな）りのまち

プロジェクトA 農からはじまるお付き合いプロジェクト

取組1 田畑を活用した農業体験イベント

- ・子どもが楽しみながら農業に親しむことができるイベントの開催

取組2 野菜販売所の開設と、複数の販売所を結ぶ案内図の作成

- ・複数の販売所が開設できた際には、各販売所で異なる野菜を販売することを検討したり、他の販売所の紹介、旬の野菜を紹介するなど連携を図る
- ・公民館や自治会館等を活用した野菜の販売スペース（販売所）の開設
- ・定期的な開催についても検討（朝市など）

取組3 貸し農園の開設と利用者同士や地域との交流の場づくり

- ・地域の遊休農地を貸し農園として活用
- ・利用者同士や地域住民との交流も実施（農業体験や収穫祭など）

取組4 農業の担い手の募集と、初期支援

- ・県外などから農業の担い手を募集し、参画を支援するとともに、担い手として育成

プロジェクトB 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト

取組1 イベントや活動の実施

- ・お花見イベントや、川をきれいにする活動の展開

取組2 桜並木の遊歩道や自転車道の整備

- ・住民が中心となって植樹を実施
- ・桜並木の中、訪れた人がゆったりと歩ける遊歩道や自転車道づくり

取組3 河道の整備

- ・人が川に入り、水を中心とした自然と触れ合うことができる環境づくり

取組4 四季を通して憩える環境づくり

- ・環境を破壊しない、自然な水環境づくり
- ・水辺の散策路を整備し、行き交う人が春夏秋冬を通して憩う場の創出

取組5 芦刈園をビオトープとして活用

- ・四季の花を植え、散策路や遊歩道として活用

取組6 環境学習拠点として集落排水施設を活用

- ・山賀内湖と共に活用。魚釣りやカヌー教室の実施

取組7 グラウンドゴルフコースの設定

- ・新守山川河川敷にグラウンドゴルフコースを整備

取組8 ホタルの育成・保護を通じたホタルと触れ合う環境づくり

- ・ホタル観賞ルートの延長
- ・夏の夜を楽しむルートづくり
- ・他季節のイベントと連携し、年中お祭りがあるコミュニティづくり
- ・自治会で「ホタル保護区」を設定し、有志で推進

プロジェクトC 水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

取組1 小津の地名とその由来の再発見

- ・昔からの地名を収集・整理し、地域の歴史を再発見

取組2 水資源と歴史資源との関係性を紐解く

- ・金森長近、蓮如と門前町、信長と一向一揆、環濠などのまちの歴史と、小津の歴史や水の歴史を紐解く

取組3 魅力の再発見・再整理のための勉強会の実施

- ・歴史的な魅力を伝える看板や標識などの作成を目指し、住民みんなで地域のたからものを整理することで、地域への愛着や住民同士のつながりを醸成

取組4 四季の花や祭と連携したマップ・コースづくり

- ・「新守山川触れ合い環境整備プロジェクト」と連携し、地域の魅力（四季の自然や風物詩など）や散歩コースなどをマップにまとめ地域住民が活用する

取組5 ウォークルートの設定

- ・史跡やゆかりの地等を結ぶ魅力的なウォークルートの設定
- ・散歩コース（健康づくり）、探検コース（まちを知る）などを検討
- ・市内全域をつなぐルートも検討

取組6 若い世代も楽しめるイベントの実施

- ・児童が楽しく学習しながら参加できるスタンプラリーやウォークラリー等の開催

☆ H26 年度からまず初めに進めていく取組

- 行政と連携を図りながら、「新守山川触れ合い環境整備プロジェクト」を推進します。具体的には、琵琶湖に続く新守山川の左岸に桜並木を住民の手で植樹し拡充整備することについて検討を始めます。
- 山賀内湖や小津袋を活用した環境学習会、カヌー教室の開催について学区における既存のグループ等と連携を図りながら推進します。
- 遊休農地を有効活用した貸農園の実施や地元で収穫した野菜を販売する、公民館や軒先等を活用した朝市等の実施についても検討を進めます。
- 自然豊かな地域への愛着を深めることや健康増進を図るため、新守山川周辺に咲く四季の花が楽しめるウォークルートの設定やマップの作成、スタンプラリーやウォークラリー、歴史探検ツアーの実施についても学区のまちづくり組織や既存のグループ等とも連携を図りながら実施に取り組みます。

[現在、市が取り組んでいる施策等]

- ・ 公民館社会教育事業
- ・ 守山市ホタル条例、規則
- ・ ほたる河川〔指定保護区域、特別保護区域〕の指定
- ・ ほたるに配慮した河川整備
- ・ 小学校における地域学習
- ・ 守山市景観条例
- ・ 守山市「わ」で輝く自治会応援報償金
- ・ 守山市野洲川畑地帯新規就農者育成支援事業補助金
- ・ 守山市経営開始型青年就農給付金
- ・ モリヤマメロン新規就農者育成支援交付金
- ・ ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例（県）
- ・ 市民農園登録制度

など

玉津の伝統文化を活かし、先人の暮らしの知恵を 子どもたちに引き継ぐまち

プロジェクトA 諏訪屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化

プロジェクト

取組1 諏訪屋敷を活用した住民主体の憩いの場づくり

- ・ 諏訪屋敷の整備・再生（茶室の整備・修景など）
- ・ 諏訪屋敷をフィールドとした住民活動の促進（花いっぱい運動など）
- ・ 地域住民・ボランティアによる維持管理・運営など

取組2 諏訪屋敷を軸とした農村文化まるごと体験

- ・ 諏訪屋敷などの古民家を活用したまちづくりの推進
- ・ 守山の農村生活文化の伝承
- ・ 地域住民がもてなす農村文化体験型プログラムの検討

取組3 地域の新しい特産物の開発・販売

- ・ 諏訪屋敷周辺の遊休地を活かした生きがい農園・花壇の整備
- ・ 農産物等の販売・品評会・自然の恵みの感謝祭、フリーマーケットなどの開催（諏訪屋敷のイベントとして）
- ・ 玉津の特産物を活用した料理教室・試食会の開催（諏訪屋敷のイベントとして）

取組4 玉津の隠れた名所の掘り起こしと名所選定、手作りツアーの実施

- ・ 諏訪屋敷などを巡る歴史街道ツアーの企画
- ・ 諏訪まつりの検討
- ・ 玉津を歩こう会、お宝発見ツアーの開催
- ・ ガイドブックの作成
- ・ 名所案内板の設置

取組5 歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり

- ・ 歴史・伝統文化にかかる文献整理・写真記録、言い伝えの掘り起こし、神社・お寺との連携
- ・ 玉津の歴史・伝統文化の語り部の養成

- ・語り部などが活躍できる機会や場の創出
- ・長刀祭などの伝統ある祭の活性化（集落共同出演・運営組織の連携など）
- ・歴史街道ツアーの開催

取組 6 玉津の伝統文化の遊びを次代に伝える仕組みづくり

- ・地域の神社・お寺・鎮守の森などにある自然素材でつくる懐かしの遊びの復活・イベント化
- ・各地域の行事（夏祭り）などのリレーイベント化

プロジェクトB 赤野井湾再生プロジェクト

取組 1 赤野井湾漁業の観光資源化

- ・赤野井湾の水質の改善
- ・観光漁業の導入

取組 2 水運遺構の歴史・水辺の活用、遊歩道づくり

- ・水運遺構の歴史再発見（案内看板等の設置や歴史の語り継ぎ）
- ・琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ水辺の遊歩道づくりの検討
- ・五感を使った琵琶湖の自然を学べる仕組みづくり（自然体験基地づくり、探検ツアーの開催、心身の健康づくりと癒しの場の創出など）

プロジェクトC 食の地産地消推進プロジェクト

取組 1 湖魚・地元農産物の地産地消の促進

- ・地元の食材によるグルメイベントの開催
- ・料理教室・調理実習の開催
- ・湖魚をおいしくいただくメニューの開発
- ・農産物生産者等の共同チームによる直場所等への出品検討
- ・農産物の品評会の開催

プロジェクトD 玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト

取組 1 天神川などをホタルの保護区として整備・情報発信

- ・天神川の水量の確保
- ・小学校のホタル育成活動との連携

- ・自然に配慮した河川護岸の導入検討

取組 2 玉津ホタル祭りの企画

- ・玉津ホタル祭りの企画
- ・他地区のホタル祭りとの連携

取組 3 みんなで楽しむイベントの企画

- ・スタンプラリー・クイズ等のイベントの開催
- ・自然に配慮した河川護岸の導入検討
- ・市民運動公園内の天神川を利用した魚つかみ大会、たからもの探し大会・フリーマーケットなどのイベントの開催
- ・自治会連携による学区全体としてのイベントの開催（一本こうじ相撲大会など）

取組 4 伝統ある行事を盛り上げる

- ・長刀祭などの伝統ある祭りを市民誰もが参加できる祭りにするなど盛り上げる方法を検討
（広く参加者を募る事や集落共同出演にする事で見学者の増加や地域間の交流を期待）

取組 5 玉津の行事・イベントの情報発信

- ・玉津情報発信パンフレット・マップの作成、インターネットによる情報発信（ホームページ作成）

プロジェクト E 定住促進プロジェクト

取組 1 地区計画の検討・調整区域の見直し

- ・定住促進に向けた法制度の検討

取組 2 生活慣行の見直し

- ・地域住民がより住みやすくなる地域社会の生活慣行のあり方の協議・必要な見直し

取組 3 将来のまちづくりに向けた協議の場への若者の参加促進

- ・まちづくり活動への若者の参加促進・協議の仕組みの工夫

取組 4 住民の安全・安心を確保できる環境整備

- ・高齢者・障害者・子ども・子育て家庭などの仲間づくり、居場所づくり
- ・地域の安全・安心創出活動（関係団体の連携強化）

☆ H26 年度からまず初めに進めていく取組

- 「諏訪屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化プロジェクト」を取組みます。現在取り組んでいる地元自治会や既存グループとも連携を図りながら、学区全体の取組として高めます。具体的には、地域住民手作りによる屋敷内の花壇や農園づくりや地元で収穫した野菜などを販売したり、フリーマーケットなどの実施をします。
- 野菜の販売やフリーマーケットの実施については、「食の地産地消推進プロジェクト」として、学区内の各自治会におけるイベントにおいてもそれぞれの自治会と連携を図りながら開催することを推進します。
- 「赤野井湾再生プロジェクト」として、小学校や隣接する小津学区、漁業組合等とも連携をはかりながら、体験ツアーや自然学習会などを開催します。
- 「玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト」では、ホタルが飛ぶ川を清掃する際のルールを定めたり、学区全体の取組として、地域を知るスタンプラリー・クイズなどを開催します。
- 学区の取組として、玉津情報発信パンフレットマップなどを作成し、地域の魅力を高めます。

[現在、市が取り組んでいる施策等]

- ・ 公民館社会教育事業
- ・ 守山市ホタル条例、規則
- ・ ほたる河川〔指定保護区域、特別保護区域〕の指定
- ・ ほたるに配慮した河川整備
- ・ 小学校における地域学習
- ・ 守山市景観条例
- ・ 守山市「わ」で輝く自治会応援報償金
- ・ 守山市野洲川畑地帯新規就農者育成支援事業補助金
- ・ 守山市経営開始型青年就農給付金
- ・ モリヤマメロン新規就農者育成支援交付金
- ・ 地区計画制度
- ・ 大庄屋諏訪家屋敷秋季特別公開
- ・ 諏訪家屋敷農村文化まるごとプロジェクト

など

「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」 未来につながるまちづくり

プロジェクトA 野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト

取組1 野洲川の自然との触れ合い・体験

- ・親水空間の整備（川面へのアプローチや飛び石等の整備）
- ・笠原の桜・河川公園・魚ポイントを連携させた活用・情報発信
- ・魚を「獲って、食べる」イベントの開催（子ども向け）
- ・「いかだ流し」の復興など新たな地域イベントの創出

取組2 野洲川「花いっぱい」運動

- ・遊歩道とコスモス園の整備
- ・自治会の連携による「花いっぱい」運動の推進

取組3 法竜川での「魚あそび」

- ・浅くてきれいな川での魚つかみ大会の開催（子ども向け）

取組4 里川の「遊空間」としての活用

- ・「水遊び安全教室」の開催

プロジェクトB 近江妙蓮活用プロジェクト

（豊かな自然を活かし「四季をつなぐ」プロジェクトを含む）

取組1 近江妙蓮を中心とした地域間交流

- ・蓮で有名なまちと姉妹提携を結び、蓮めぐり交流ツアー等を企画
- ・国の天然記念物への申請を行い、全国的に情報発信
- ・関連資料（古文書等）の管理体制の充実（貸出等への対応）
- ・駐車場整備等、観光客の受け入れ態勢の整備

取組2 地元住民の参画による妙蓮公園の魅力向上

- ・妙蓮公園に全国から蓮の花を集めるなど、機能・魅力の向上
- ・地域住民の参画による妙蓮の管理
- ・地元向けの学習会の開催や情報発信

取組3 季節の花や果樹を活用し「四季をつなぐ」取り組み

- ・近江妙蓮・笠原桜並木・野洲川中段の花公園・グランドゴルフ場等と連携したお花見スポットの整備
- ・桜・水仙・彼岸花等、季節の草花の活用（球根植物の活用）
- ・栗・柿等の果樹の植栽
- ・河川敷にウォーキングロードを整備

プロジェクトC 河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト

取組1 河西のみどころマップの作成

- ・学区内の歴史・文化遺産のみならず、豊かな自然を紹介するマップづくり

取組2 情報発信の拡充

- ・「たからもの」の案内板の整備（音声案内を含む）
- ・ホームページや瓦版（学区新聞）による広報の拡充（イベント・行事等の情報発信）
- ・ウォーキング・サイクリングコースの設定
- ・川戸をはじめとした水の歴史の情報発信（阿比留の『川戸』活用プロジェクト）との整合・調整）
- ・まちを紹介する「河西物語」の作成

取組3 「はなだより」情報の発信

- ・桜・近江妙蓮・紫陽花・コスモス等の開花状況等の情報発信

プロジェクトD 河西のみんなで「つながる」プロジェクト

取組1 自治会同士や新旧住民で交流し「つながる」

- ・自治会の連携による「学区民の集い」や運動会の拡充と参加型イベントの開催
- ・誰もが参加しやすい仕組みづくり（トーナメント形式のスポーツ大会等）
- ・イベント等の魅力の向上・情報発信（集客力の向上）

取組2 若い世代が交流し「つながる」

- ・行事と音楽イベントなどを組み合わせた若者・新住民向け行事の開催（若者の企画したイベントの開催）
- ・親子で楽しむイベント・行事の開催（若い子育て世代対象）
- ・子育て世代の参加環境の整備（イベント時の保育ルームの開設など）
- ・ゴルフ・ソフトボール・ボウリング等、多様なスポーツイベントの開催

- ・「子どもかるた大会」「子ども将棋大会」の開催

取組3 世代間で交流し「つながる」

- ・大人から子どもまで、あらゆる世代が楽しめる河西学区大運動会の開催
- ・公園を活用した健康促進の取組（子どもとお年寄りまたは、子どもから高齢者まであらゆる世代の交流）
- ・夏休みに自治会館を開放し、子どもと高齢者対象のイベントを開催
- ・自然を活用した遊び（魚釣りなど）を通じた世代間交流

取組4 ユニークな行事・イベントを通じて「つながる」

- ・八田神社での年末のしめ縄作りへの学区民の参加促進（老人クラブ以外の参画の促進）
- ・阿比留の灯明踊りや初詣で灯されるペットボトル灯籠を学区全体に展開（子どもが作ったペットボトル灯籠）
- ・お祭り（おみこし）による交流の促進（子ども会の参加）

プロジェクトE **健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト**

取組1 高齢者の買い物支援

- ・企業・事業者の力を活かした高齢者への生活支援（企業保有のバスの活用、買い物支援など）

取組2 公園・道路・河川の整備検討への参画

- ・野洲川河川敷等にスポーツ公園を整備（サッカーや野球が出来る公園）
- ・ボール遊びのできる公園整備（フェンスで公園を囲む等）
- ・ホテル公園・コスモス公園・桜公園など、ひとつの特色に秀でた公園・緑地の整備
- ・野洲川新堤防の道路整備
- ・ホテルの住める里川の環境整備

☆ H26年度からまず初めに進めていく取組

- 学区の取組として「野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト」や「近江妙蓮活用プロジェクト」の四季を通じて花や川辺の風景、自然が楽しめる地域づくりに取り組めます。（四季の花にこだわったまちづくり）
- 「河西のみんなで「つながる」プロジェクト」では、歩こう会などの健康づくりイベントや収穫祭、音楽イベントなど、学区内の自治会とも連携を図りながら住民同士の交流を推進します。
- 地域への関心を高めるため「河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト」を推進し、身近な魅力をまとめたマップを作成し地域住民に情報発信します。

[現在、市が取り組んでいる施策等]

- ・ 公民館社会教育事業
- ・ 守山市ホテル条例、規則
- ・ ほたる河川〔指定保護区域、特別保護区域〕の指定
- ・ ほたるに配慮した河川整備
- ・ 小学校における地域学習
- ・ 守山市景観条例
- ・ 守山市「わ」で輝く自治会応援報償金
- ・ 野洲川北川原公園整備事業

など

受け継いできた自然と未来を見つめる人が主役のまち ～守山の北玄関 エコミュージアム・はやの～

プロジェクトA 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

取組1 幹線道路沿いに情報発信拠点を整備（道の駅など）

- ・「守山の北の玄関」をアピールするシンボルを設置（「ようこそ守山へ」のアーチ看板など）
- ・遊休地や既存の空き物件を活用して交流や地域農産物等の販売拠点を設置し、地域の農産品や水産物の販売や食事を提供
- ・「おうみんち」のような、地元の農産品の生産者が集える場の設置
- ・「近江の中心」として、守山市、速野学区だけでなく、近江全体の特産品や地域情報を集めて販売、発信する

取組2 速野の住民が守山市を代表する情報発信の担い手に

- ・情報発信拠点において、速野の住民が守山市の情報発信の担い手として、地域の歴史や産業や観光資源（自然、景観、歴史資源など）を情報発信する。

プロジェクトB 速野まるごとエコミュージアムプロジェクト

取組1 速野エコミュージアムマップ・パンフレットの作成

- ・速野に点在する様々な河川、湖、水辺空間、自然資源の中から、紹介するポイントを地域住民によって選定
- ・季節毎の見どころなどを考慮し特徴を示したエコミュージアムマップおよびパンフレットを作成

取組2 速野エコミュージアム回遊ルートの形成

- ・広大な速野学区に広がる水辺空間を回遊できる遊歩道、サイクリングロード等の整備
- ・「四季の速野巡り」と題したルートの設定
- ・統一感のある案内標識や説明看板の整備

取組3 環境学習を指導、実践する地域の組織、人材づくり

- ・それぞれの河川、湖、公園などに環境学習を指導するインストラクターやガイドを配する
- ・インストラクターやガイドの人材は各自治会から発掘、育成

- ・地域の子どもたちによる「エコレンジャー」を結成し、地域の高齢者といっしょに清掃や草刈りなどの保全活動に取り組む

プロジェクトC びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト

取組1 学区住民の日常的な楽しみと安らぎの場づくり

- ・美崎公園、なぎさ公園まで連続する遊歩道、ジョギングコース、サイクリングロードの整備
- ・堤防沿いに桜並木を整備
- ・流水の確保、水質の向上、親水景観の整備、清掃の徹底によるやすらぎ環境の整備

取組2 学区住民の相互交流の場づくり

- ・球技を楽しめるグラウンドの整備（ソフトボール、サッカーなど）
- ・学区民の集い、学区民スポーツ大会など、学区内交流、世代間交流を目的とした定例行事を地球市民の森で開催
- ・雑草の手入れや管理等の環境保全に学区住民が参画するしくみをつくり、協働の機会を創出

取組3 他地域からの来訪者を呼び込むイベント開催

- ・年間を通しての集客イベントの開催（ソーラン、マラソン大会、ウォークラリー大会、音楽祭など）
- ・グランドゴルフコースを、国際的な大会を開催できるような名門コースとして整備

プロジェクトD 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト

取組1 大川の水質改善と周辺の自然環境改善

- ・水草の除去やヘドロの清掃等により水質を改善し、人が触れることができ、多様な生物が生息できるきれいな水の復活
- ・川岸に繁茂する雑草の除去や不法投棄物等の撤去により、悪臭などのない快適な沿岸環境の整備

取組2 大川と周辺の自然を利用した環境学習プログラムの作成

- ・大川とその周辺に生息する淡水生物、野鳥、昆虫、植物を活用した環境学習の場の整備、環境マップの作成、回遊歩道や木道の整備など
- ・美崎公園のキャンプ場利用と環境学習をセットにしたプログラムづくり

取組3 大川と周辺の花のネットワーク形成

- ・ハマヒルガオ、ひまわり、菜の花、コスモス、その他の希少な草花など、大川から琵琶湖にかけて咲く草花を紹介するマップの作成
- ・花畑の手入れや周辺の清掃、草刈りなど、地域の住民による保全活動

プロジェクトE いにしへの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト

取組1 歴史的たからものの再発見&情報発信

- ・地域に点在する神社仏閣、史跡が持つ個々の歴史などに関する情報を住民が手分けして収集・整理
- ・その結果をまとめた歴史回遊マップ・パンフレットの作成、統一感のある案内標識や説明看板の設置
- ・これらを活用した速野の歴史探訪プログラムを作成

取組2 歴史の語り部の発掘と活躍の場の創出

- ・お年寄りや地元の研究者が速野の歴史の語り部（歴史ガイド）となり、地域の行事や学校教育など活躍できる機会を設定
- ・地区外からの来訪者に対する語り部として活躍できる人材をつくる

取組3 地域の歴史を住民が学び伝える環境づくり

- ・地域の若年世代が親子で楽しみながら地元の歴史を学べるスタンプラリーやウォークラリー等の開催

プロジェクトF みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

取組1 まちづくり組織の見直しと次代のリーダー育成

- ・生涯学習等に偏りつつある既存のまちづくり組織の状況を、あらゆる年齢層の人が参加し将来ビジョンを議論できる組織に再編
- ・次代を担う若手の学区民の中から、将来のまちづくりを進める上でのリーダーとなる人材を発掘し育てるためのしくみづくり

取組2 先駆の気風を継承しつつみんなで考える将来ビジョン

- ・速野の伝統である他学区に先駆けた様々な先進的取り組み、進取の気風を継承するため、学区や自治会組織の古い部分を見直し、風通しのよい若者や女性が参加しやすい組織に少しずつ改編

取組 3 安全・安心な環境づくりをテーマとしたまちづくり活動

- ・自治会・婦人会・老人会等の地域組織と行政、警察、消防等との関係団体との連携・協力体制の充実を図る。
- ・子どもから高齢者まであらゆる世代が集まって交通安全上の危険箇所を抽出し、「ヒヤリハットマップ」をつくる

☆ H26 年度からまず初めに進めていく取組

- 速野学区の「豊かな自然」や琵琶湖をはじめとする「美しい景観」を特に意識し取組みます。四季それぞれで自然をウォーキングやマラソン、サイクリングを通して体感が楽しめる、回遊ルートの設定をします。(ルートマップを作成し、住民への周知と健康増進の推進を図る)
- 大川や地球市民の森などを活用し、学区民の集いや学区民スポーツ大会(ウォーキングやマラソン大会含む)など、学区内交流、世代間交流を目的とした定例行事を実施します。併せて雑草の手入れや管理等の環境保全に地元自治会だけではなく、学区住民が参画するしくみをつくり、協働の機会を創出します。
- 「みんなで考えよう速野の未来プロジェクト」や「守山の北の玄関おもてなしプロジェクト」については、地域が抱える重要な課題として位置づけ、研究や検討を推進します。
- 「いにしへの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト」では、歴史回遊マップやパンフレットをつくり、新しく転入された住民や次世代に対する継承に取り組めます。また、それぞれの自治会が開催する行事やイベントの際に、学区内の自治会同志が交流する取組についても推進し、助け合い支え合いの風土づくりに取り組めます。

[現在、市が取り組んでいる施策等]

- ・ 公民館社会教育事業
- ・ 守山市ホテル条例、規則
- ・ ほたる河川〔指定保護区域、特別保護区域〕の指定
- ・ ほたるに配慮した河川整備
- ・ 小学校における地域学習
- ・ 守山市景観条例
- ・ 守山市「わ」で輝く自治会応援報償金
- ・ ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例(県)
- ・ 大川活用プロジェクト(自治会、立命館守山高等学校、京都大学、守山市)

野洲川と共に生き、野洲川と共に栄えるまち

プロジェクトA 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト

取組1 河川敷の公園化推進

- ・親水公園の整備計画は行政と連携して進めている
- ・整備後の利用方法については、行政と連携して計画を策定し実施する

取組2 みんなで担う公園管理の仕組みづくり

- ・整備策定の推進と並行して、管理体制についても今後検討

取組3 伏流水の取水方法検討

- ・里中に魚が住める水を再び流す方法について、調査を実施（調査は行政により実施）
- ・専門家の去力を得ながら行政が計画し、地元の意見と調整

取組4 里中河川沿いの景観づくり

- ・里中河川沿いの景観づくりについて検討する

取組5 伏流水を活用した事業の実施

- ・伏流水が流された後の景観づくり等の取組を検討、推進

プロジェクトB みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト

取組1 既存イベントを活用した地域内外の交流活性化イベントの開催

- ・新たなイベントを企画し実施するのではなく、まずは既存イベントを改善・工夫（野菜販売、フリーマーケット等）
- ・地域住民が参加しやすく、企画・運営にも関わりやすくなるような内容を検討（シニア世代の支援により若年層を巻き込む努力も大切）

プロジェクトC 農業を元気にするプロジェクト

（歴史・食文化活性化・情報発信プロジェクトを含む）

取組1 中洲ブランド特産品の開発

- ・「守山メロン」や「吉川の菊菜」は既にブランド作物として認知されている。その他の作

物についてもブランド化を推進

- ・今は個人で加工している製品を加工所にて連携して製品化
- ・産地を明示することで中洲の情報発信にも貢献

取組2 加工所、道の駅、観光農園の整備

- ・フルーツランドの機能充実（交流、販売拠点としての「フルーツランド」）、観光農園の整備を推進
- ・道の駅での販売員といった雇用も創出可能

取組3 「新たな担い手」活用の推進

- ・遊休農地の農地集約を実施し、大規模な農地を作り「新たな担い手」を活用した農業振興

取組4 体験型農業・レンタル畑・イベント・情報発信活動

- ・都会から近いという特性を活かし、体験型農業やレンタル畑事業やイベント開催を推進

取組5 地域農業の情報発信（鮎切り祭、鮎寿司に代表される伝統「食文化」の継承と情報発信）

- ・「ふなずし」を外部へ向けて情報発信（ホームページやメディア、行政や観光協会と連携）
- ・中洲で遊休農地を借りてメロンを生産している事例の紹介やイベントの紹介など情報発信推進
- ・「農」「漁」を地元特産品として一括して開発・情報発信・販売に取り組む

プロジェクトD 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト

（ビックレイク活用プロジェクトを含む）

取組2 ふれあい交通の見直し・モーリーカーの活用

- ・ふれあい交通をきちんとした有償サービスとして位置づけるなど、課題整理と見直しを検討
- ・モーリーカーのさらなる有効活用や改善策を検討

取組3 地域の力を活用した公共交通

- ・地域内の資源（飲食店のマイクロバスなど）を活用した、地域で担える公共交通を検討
- ・公共交通利用で店舗で割引が受けられる等、店舗と連携した利用促進策を検討
- ・法体系など複雑な部分が多いため、行政と協働で推進

取組5 ビックレイク等集約施設への公共交通による交通アクセス利便性向上

- ・ビックレイク等の集客施設へ公共交通によるアクセス利便性を向上

取組6 ビックレイクを活用し中洲学区の特産品を販売

- ・ビックレイクにてスポーツ大会等の開催時に特産品を販売
- ・スポーツ目的での訪問者向けに農家民宿を整備し、中洲の食文化や歴史を情報発信

☆ H26年度からまず初めに進めていく取組

- 行政とも連携を図りながら、「野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト」を推進します。具体的には、中洲小学校横の野洲川河川敷を活用し、子どもから大人までが野洲川の自然と気軽に親しめる場所づくりに取り組みます。野洲川（中洲地区）かわまちづくり検討委員会などにて行政と連携して検討を進めます。また、伏流水の取水方法検討などについても、このプランの策定を機に有識者や行政の協力を得ながら学区内の各自治会を対象として研究を進めます。
- 「農業を元気にするプロジェクト」としては、フルーツランドやビックレイクなどを活用した地元収穫の野菜や加工品の販売、また貸農園や体験型農業についても経験者のノウハウを参考に試行的な実施を進めます。
- 「みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト」としては、新たなイベントを企画し実施するのではなく、まずは、既存のイベントを改善工夫（野菜の販売やフリーマーケット等）することから取組ます。
- 「安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト」は、地域の重要な課題として位置づけ、地域の力を活用した公共交通などをはじめ、更なる研究、検討を推進します。

[現在、市が取り組んでいる施策等]

- ・ 公民館社会教育事業
- ・ 守山市ホテル条例、規則
- ・ ほたる河川〔指定保護区域、特別保護区域〕の指定
- ・ ほたるに配慮した河川整備
- ・ 小学校における地域学習
- ・ 守山市景観条例
- ・ 守山市「わ」で輝く自治会応援報償金
- ・ 守山市野洲川畑地帯新規就農者育成支援事業補助金
- ・ 守山市経営開始型青年就農給付金
- ・ モリヤマメロン新規就農者育成支援交付金
- ・ 地区計画制度
- ・ 守山市地域公共交通会議
- ・ 野洲川（中洲地区）かわまちづくり検討委員会
- ・ 中洲学区環境用水確保検討プロジェクトチーム
- ・ 市民農園登録制度

など

プラン（プロジェクト）具現化に向けた課題

(1) 地域における取組の推進

- ・地域における取組を推進するためには、事業主体・運営主体が必要となる。
 - 地域における主体の設置や運営、事業実施にともなう支援を行うとともに地区会館の積極的関与を推進する。

(2) 市による事業化および進捗管理の実施

- ・市による計画的な事業化を図る必要がある。
 - (1)の状況や市の財政状況等（国・県の補助金、交付金を含む）を勘案する中、順次担当部署にて事業化を行う。
- ・地域を含めた進捗管理を行う必要がある。
 - 地域や市の進捗状況を両者が共有する場を設定し、進捗管理を行う。

(2) 守山まるごと活性化プラン 内容構成・目次 (案)

市長あいさつ

【 計画概要 】

- 1 「守山まるごと活性化プラン」とは何でしょう？
 - (1) めざすもの
 - (2) プランの位置づけ
 - (3) プランの範囲 → 対象地域や計画期間
 - (4) プランの構成

【 計画の策定 】

- 2 学区住民の話し合いでつくりました
 - (1) 策定の体制
 - (2) 策定の方法

【 学区別 まるごと活性化プロジェクト 】

- 3 各学区がめざすまちづくりプラン
 - (1) 守山学区
 - ① 守山学区はこんなまちです
 - ② 守山学区の宝物（魅力、地域資源）
 - ③ まちの課題
 - ④ まちづくりの基本方向
 - ⑤ まちづくりのプロジェクト
 - ⑥ 実現に向けて → H26年度取組みを開始する事業 など
 - (2) 吉身学区
 - (3) 小津学区
 - (4) 玉津学区
 - (5) 河西学区
 - (6) 速野学区
 - (7) 中洲学区
 - ※ 共通事項
 - ※ 資料マップ等

【 計画実現支援方策 】

4 守山市は学区の取組を応援します

(1) 基本方針

(2) 支援の方策

① 推進体制

② 支援の方策

→ 学区を跨いで行うべき取組みについて

→ 引き続き検討を重ねることが必要な事業への支援 など

【 その他 】

5 資料

(1) 委員名簿

(2) 策定経過（各会議等の実施記録）

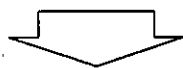
(3) 各学区の検討結果（詳細）

(4) 検討参加者の声 → 一言感想（学区別、無記名）

(3) 今後の検討および策定の進め方

今後のスケジュール(予定)

1. 第3回 全体会議 (12月16日)
2. 第6回 学区別会議 (1月)
報告会として開催
→ 学区プロジェクトの案について
→ 活性化プランとりまとめの方向性 など
3. 第4回 全体会議 (2月)
「プラン案とりまとめ」
→ 修正意見等をプランに反映
4. 学区毎の住民説明会実施 (3月)
5. 守山まるごと活性化プラン策定



次年度以降、地域と行政が連携し、プロジェクトを順次具現化

守山まるごと活性化プラン検討委員会（第2回全体会議）議事録

日時：平成25年10月3日（木）19:30～21:30

場所：吉身会館

出席者：【委員】：布野委員長、高野副委員長、
河野委員、小西委員、杉田委員、高谷委員、竹村委員、
谷口委員、千代委員、中委員、西田委員、濱崎委員、日下山委員、
布野委員、三品委員、三宅委員、村上委員、山岡委員

【事務局】：宮本市長、島戸政策調整部長、大寄政策調整次長、木村課長、
坪内課長補佐

【その他】：関係職員、コンサルタント

次第

- (1) あいさつ
- (2) 検討の取組状況について（報告）
- (3) 各学区の活性化の方向性について（協議事項）
- (4) 学区会議に向けて（協議事項）
- (5) その他（事務連絡など）

1 開会

あいさつ（市長、委員長）

2 議事

(1) 検討の取組状況について

布野委員長	学区別の取組状況について、学区別会議のアドバイザーを務めていただいている濱崎委員にコメントをいただいた後、各学区長から補足説明をいただきたい。
濱崎委員	守山学区や吉身学区には歴史的資源が多くあるが、次の手がわかっていて議論を急ぐ部分が見られた。逆に駅から遠い河西学区や中洲学区などでは今まで地区の良さを話す場が少なかったため、これを機会に地区の良さを考えて行こうというゆったりとした雰囲気があり、学区により進め方に違いが見られた。 人、自然、歴史遺産と全学区に共通した課題や特徴も多いが、学区による違いも見られる。
千代委員	守山学区は新旧住民が混在した学区である。新住民は文化的なものには興

	<p>味がないが、旧住民は文化やまつりごとを大事にしている。</p> <p>水に関する関心は全体的に高く、ホテルが生息するまちが重要視されている。また、中山道や伊勢遺跡に対する関心も高い。自治会活動も盛んな学区であり、まちの絆が出来ているのではないか。</p>
濱崎委員	<p>吉身学区は守山学区と比較して同じような意見が上がっているように感じた。</p>
三宅委員	<p>吉身学区は守山学区と似たタイプの学区である。学区がJRで2分されているため、それに関わる課題があがっている。第4回会議でも議論したが、歴史、自然、伝統文化をどう引き継いでいくか、どうPRしていくかが重要となる。宅地造成による自然の喪失、新旧住民の交流など様々な問題を活性化プランでいかにまとめていくか、最終回に向けて検討を進めていく。</p>
三品委員	<p>小津学区のほぼ全体が小津神社の氏子であり、寺はすべて真宗大谷派であることから、学区全体としてまとまっているのが特徴である。一部の新興住宅地で人口が増加しているが、旧住民も多く、比較的まとまった学区である。学区のプランとして上手くまとまるか危惧しているが、活発な意見が交わされ、改めて小津学区の良さを知ることができた。安心して進めていきたい。</p>
布野委員	<p>蓮如は吉崎に行く前に金森を拠点にしたのか。</p>
三品委員	<p>金森から入ったと言われている。</p>
宮本市長	<p>金森は日本初の寺内町と言われている。信長の朱印状があるなど非常に歴史豊かな地域である。</p>
布野委員	<p>小津学区で初めて農業というキーワードが出てきたが、農家も多いのか。</p>
三品委員	<p>集団化されてはいるが、高齢化により農業の担い手が不足していることが課題となっている。</p>
宮本市長	<p>金森や欲賀など一部地域を除いて市街化調整区域指定され開発が抑制されている。</p>
濱崎委員	<p>交通の便の悪さ、少子高齢化、人口減少は市街化調整区域指定が影響しているため、市街化区域に組み込んで欲しいという意見が多くあがっていた。そこまで人口減少が進んでいることに驚いた。</p>
宮本市長	<p>市街化調整区域指定を変更することは非常に難しいが、玉津学区でも石田地区などでは、白地（農用地区域以外）の農地も取り込んで地区計画を活用した開発計画を進めようとしている。</p>
谷口委員	<p>玉津学区は4自治会のみで構成されるため、人のつながりが強いのは当然なことである。伝統行事や祭等に関して近接の小津学区とのつながりもある。東西別院を通じ、寺は守山学区全体とのつながりもある。玉津は琵琶</p>

	<p>湖（大津港）と守山をつなぐ交通の要衝であったことから、舟運で栄えたことを伝える資源が多く残っているため、これらを活用できないかと考えている。人口減少については、地区計画等人口増の計画を検討中である。守山の7つの川全てが赤野井湾に流れ込んでいるので、琵琶湖、川、赤野井湾を活用し、拠点にしていきたいと考えている。</p>
濱崎委員	<p>地域住民の交流が盛んであることが河西学区の特徴となっている。一方で世代間のつながりの希薄化や祭りには参加するが自治会活動への参加が少ないなどが課題として上がっており、偏りがみられるため、そういった意味での人と人との繋がりが課題である。</p> <p>たからものの中にアライグマが挙がっているが、外来種なのでたからものに入れるかどうか検討する必要があるのではないかと。</p>
高野副委員長	<p>河西学区は野洲川とともに生活してきた地域である。活性化についても野洲川を中心とした意見が多くあがっていた。大正時代の野洲川の決壊で犠牲になった慰霊者の100回忌を学区で行ったほど、野洲川とのつながりが強い。笠原の桜を活用して年間を通じて人を集めることができないかということが学区の大きな方向性としてあがっている。都市化も進んでいるが自然豊かで野洲川を中心に自然を生かしていきたいと考えている。</p> <p>また、幼稚園から中学まで1校であるので、父兄の交流がスムーズであるのも特徴となっている。河西学区は旧在所、40年ほど前からの新興住宅地、新しい地域の3地区に分かれおり、人口比率もほぼ同じ割合で推移しているので、新住民を学区の活動にどう取り込んでいくかが大きな課題だと思っている。</p> <p>会議が始まった当初は議論も盛り上がりず心配していたが、会議が進むにつれ議論も非常に活発化しており、最終回に期待している。</p>
濱崎委員	<p>速野学区は恵まれているがそれを活かし切れていないという意見が多く出ていた。</p>
山岡委員	<p>速野学区を構成する10自治会のうち3自治会は新しい自治会で構成され、新興住宅で交流も少ない。学区別会議での議論を通じて、私自身も初めて学区のことを知ることができた。これからの速野学区がどうあるべきか。現在は交流の場が学区民のつどいのみであるが、自治会間の交流が非常に重要ではないかと感じている。</p>
濱崎委員	<p>7学区全てで自然、歴史遺産、人のつながりがたからものとしてあがっている。駅に近い地域人口増加地域、琵琶湖に近い人口減少地域の大きく2つのグループに分かれている。</p> <p>中洲学区でも市街化調整区域が問題になっているという意見が多いのが印</p>

	象に残った。自治会が分散しているのも大変な問題だと認識している。
布野委員長	学区長が欠席であるので、中洲学区にお住まいの河野委員からコメントをいただきたい。
河野委員	<p>中洲学区の立田に住んでいるが、客観的に見て、7つの学区の内一番寂しいのは中洲学区ではないかと思う。琵琶湖改修前は北流と南流の三角洲が中洲であり、伏流水が溢れどこの家にも井戸があり、田んぼも灌漑用水を利用し、水が豊かで団結力のある魅力のある学区であった。</p> <p>昔は速野と中洲は小学校の生徒数がほぼ同数であったが、速野は5～8倍に増加する一方、中洲はどんどん減少している。人口の急激な減少で守山の中で一番問題な地域となっているが、這い上がるポイントはたくさんある。それを活かすことで、中洲学区の住民がイキイキとしてくるのではないか。中洲学区の住民として少しでも力になりたいと思う。</p>
宮本市長	<p>自治会が分散してまとまりが少ないという課題があったが、野洲川で自治会が分断され、昔は行き来できたのが出来なくなったという意味である。児童数が減少しているのは懸念されるが中洲小学校はしっかり維持していく。地区計画や青地（農業振興地域農用地区域）の農地を転用して住宅開発ができないかという地元からの要望があり、非常に難しいが、県に継続的にお願いしているところである。</p> <p>河川改修が行われていなければ、台風18号で野洲川は確実に決壊し守山は大洪水に見舞われていた。河川改修で犠牲になった上にホテルも失われたように中洲学区は失ったものがあまりにも大きい。中洲のおかげで今の守山の安心安全があるので、中洲の課題はぜひとも解決していかなければならないと考えている。伏流水の問題については、現在琵琶湖河川事務所と野洲川の下から地下水を引くなど方策を検討している。</p>

(2) 各学区の活性化の方向性、学区会議に向けて「活性化のコアとなる取組」や「つなぐ取組」などについて

宮本市長	<p>活性化の方向性についてアドバイスをいただきたい。今後の学区別会議で「活性化のコアとなる取組」や「つなぐ取組」となるような具体の取組について議論いただくことになっている。優先して取り組むべき具体の事項を学区ごとに5～7程度に絞っていただければと思う。その点についてもご意見をいただきたい。</p> <p>自治会組織の機能強化や担い手育成の件は共通事項としてまとめるにしても、丸ごと活性化プランは5～10年程かけて取り組む予定であるので、プランの目玉として取り組むものを絞り、具体性を持って提案していただき</p>
------	--

	取り組んでいきたいと考えている。それについてもご意見をいただきたい。
布野委員長	活性化のコアとなる取組やつなぐ取組などについて、各委員から順番にご意見をいただきたい
村上委員	今日の議論を通じていくつか思いついたことを発表する。最近の若者は農地付きの中古住宅かつ古民家に住みたいという人も多い。過疎化が進む地域において新たな住宅地をつくる手もあるが、農地をつぶして新たな住宅を建てても将来人口減で空き家になるので、そういった無駄なことに投資するよりも、今あるものに手を加えて、自然と触れ合える場を提供して人を呼ぶ手を考えてもいいのではないかと。 守山に住んで17年ほどになるが、住んでいても知らないことが多い。多くの守山市民も知らないと思う。地域への愛着や誇りを持つ取組が、地域の活性化につながるのだから、まずは市民に向けてアクションを起こすといいのではないかと。例えば守山フェスティバルを開催して各自治会がPRする場を設け、地域の伝統食や祭をPRし、市民や市外の人に向けて守山を紹介するイベントがあってもいいのではないかと。
日下山委員	都会の方から見れば、稲穂の広がる田んぼの中を歩くなど何気ない風景にも魅力がある。それらを活用したイベントなどで、守山を好きになり住みついてもらうことができればと思う。
西田委員	地域ごとに多くの問題点と良い点があると感じた。いろんな方向に活性化出来る要素があるが、短期でするのか長期戦で実施するのか、地域のたからものからどう特化していくのか。老若男女あらゆる世代で検討が行われる方が次世代につなぐことができるのではないかと。
中委員	びわこ豊穰の郷ではホタルの活動を行っているが、市街地のホタルは自然発生ではなく放流によるものであり、それが果たして良いことなのかと悩んでもいる。しかし、ホタルが飛び交う河川が地域に対する愛着につながっているという意味で、河川に目を向けるためにも、ホタルが飛ぶ環境を整えるのは必要ではないかと感じている。環境と観光をメインの取組としていく上で、河川においても環境面が整っていない実態をみると、横の繋がりがりも含めて活動を考えないといけないのではないかと毎年感じている。赤野井湾におけるオオバナミズキンバイの駆除作業を実施しているが、周辺地域である小津学区や玉津学区へのしわ寄せが大きい。これについても守山市民全体で共有する問題として取りあげていかないといけないのではないかと。
竹村委員	公共交通機関について、デマンドタクシーなど北部など不便地に重点的施策を実施してほしい。

	各学区で絆が課題として取りあげられているが、行政でも更なる自治会活動に対する支援に力を入れていけば、人口減も抑制され、守山の魅力が向上するのではないか。
高谷委員	学区委員の方にお礼を申し上げたい。学区で横並びに見ると守山の現状が非常によくわかる。中洲学区と玉津学区は守山の目玉だと思う。活性化という言葉はある意味では少しまずいのではないか。守山市民全体で元気になり、綺麗になり、豊かになるためには、中洲や玉津は宝である。その理由については、時間的制約もあるので、書面で意見や提案を提出するので、次回会議で事務局から配布いただきたい。
杉田委員	京都から 30 数年前に中洲に嫁いできたが、住めば都で田舎なりに楽しみ、地域行事にも参加して守山の良さを実感した。菜まき盆にも参加し、ブラックバス料理や伝統料理の料理講習会などの活動も行っている。参加しなければその良さはわからない。これを機会に地元の良さをもっと知っていただきたい。 対岸の野洲市の中主には住宅が増加している。自分の子供達が帰ってきたいと言っているので、青地（農業振興地域農用地区域）に家を建てられるように頑張っているが、非常に難しくなかなか進まない。
小西委員	守山に来て数十年になるが、自分では知っているつもりでも、知らないことがまだまだたくさんあると実感した。住んでいる吉身東町は来年 30 軒の住宅が建つのを最後に、もう建つ土地がないという地域である。活性化のためには、特徴と課題を地域の皆さんに知っていただくことが第一ではないか。それらを周知し知っていただくことがひとつの課題であり、それが達成されることが活性化につながるのではと思っている。自治会でもさっそく特徴と課題について周知を行い、自治会の活性化から始め、学区や市全体につながるよう努力し頑張っていきたい。
河野委員	守山の活性化については、課題も多いが、大きな可能性を感じる内容でもあった。課題には、市長をはじめ市職員が解決に向けて実施する課題もあるが、市民が動き出して始めて解決する課題もある。学区の代表者がこれほど活発に地元の意見を引き出し、議論が進むとは予想していなかったが、今後も持続的に実施し、活性化に結びつけていくことが重要で、市と市民の両輪で実施していくことが重要ではないかと感じている。
高野副委員長	滋賀県の自治連合会で毎年 1 回地域活動研修会を行っている。今年度は守山市で開催することが決まっており、中洲学区長に発表をお願いしている。私見ではあるが、中洲は他の 6 学区がやっていない非常にユニークな活動を行っているので、それを県下に知らしめたいと発表をお願いした。中洲

	学区はそういうところであると自治連合会長として申し上げたい。
濱崎委員	学区別会議のオブザーバーを引き受けたが、9月までは地元の熱い議論に巻き込まれずあくまでも冷静な目で全体を見る立場として参加していた。今後は学生とともに、積極的に議論の中に入って意見を言わせていただきたい。
宮本市長	今後の進め方について、各学区で5~7プロジェクト程度に絞り込んでいただきたいが、それについてご意見をいただければと思う。
布野委員長	新旧住民の交流や世代間の交流など、課題として出てきてはいるが具体的な施策にはなっていない。そういった細かい取組はいくらあってもいいのではないか。
高野副委員長	丸ごと活性化の取組で取りあげるものと、学区で時間をかけながら取り組むものと2つに分けた方がいいのではないか
布野委員長	あまり制限をつけなくてもいいのではないかとも思うが、学区として具体的な取組はいくつくらい出そうかなど学区長からご意見いただきたい。
山岡委員	速野学区では自治会長同士のつながりはあるが、住民同士のつながりは希薄である。まずは自治会間の交流を深め、歴史や文化を活用する取組を3~5件あげられればよいと思っている。
三宅委員	吉身学区については、今後4つ程度に絞っていこうと考えている。
三品委員	活性化の意味が抽象的で非常にわかりづらい。小津学区については、住民の心をひとつにするための居場所づくりだと理解している。そういった取組を7~8に絞っていききたい。丸ごと活性化プランは5~10年程かけて取り組むという話であったが、一生懸命議論しているのに、10年先に具体化するというのは何をやっているのかわからない。
宮本市長	取組数が多くなるのであれば、10年かかるものも出てくるとは思うが、基本的には5年で具体化していきたいと考えている。
千代委員	守山学区はJRで分断されている。西側には公共施設も多いが、公共施設もない東側の住民が西側の会館を使って取組をする気持ちにはなれないのが現状である。守山学区としてひとつにとりまとめるのは非常に難しい。取組を東と西に分けるのもひとつの方法、学区の編成を変えるのもひとつの方向である。活性化とは地域の住民が住みやすいまちづくりだと理解している。住んで良かったと言われるまちづくりというのは、ひとりひとりが幸福感を持てるアイデアをどう出すか5~6であるのかと考えている。
谷口委員	玉津学区では、大きく2つの取組の方向付けを議論している。地域に伝わる歴史・伝統文化を活かすことであり、人が集まる場所、伝統行事、諏訪屋敷などの歴史遺産を組み合わせ、玉津歴史街道マップを作成し、年間イ

	<p>ベントを毎月実施することがひとつと取組である。もうひとつは、豊かな自然と住みよい地域というテーマで琵琶湖と湖岸を活用する取組である。水と緑に恵まれた四季の季節感を感じられるように、湖岸、琵琶湖、河川、小津のあじさい園を結び体カづくりが出来るような湖周ロードマップ作成の構想を考えている。</p>
高野副委員長	<p>丸ごと活性化の取組は非常に良いチャンスであると考えている。河西学区では丸ごと活性化の中で市全体として活性化を図ることと、学区で個別に検討することの大きく2つに分けて考えようと思っている。市全体として活性化を図る取組は5つくらいでいいのではないかな。建設的な意見がある一方後退する意見も出ているが、学区の活性化を図るために引き続き検討し、実行していきたい。</p>
宮本市長	<p>丸ごと活性化プラン検討の中で実施するものは各学区5~7程度とし、学区で取り組むものは個別に整理いただき、継続的にまとめていただくということによろしいか。取組は概ね5年で具体化していきたいと考えている。そういった方向で学区での更なる議論をお願いしたい。</p>

1. 学区会議から出てきた宝物など

学区単位で行なわれた会議から出てきた守山の全体像は非常に有意義でした。

やっぱり守山には3つの地区があるということがはっきりしました。市街地区、琵琶湖とその沿岸、その間に挟まった田園地区の3つです。

それと同時に、もう一つ、守山全域に通ずる特徴というものもよく分かりました。A3紙にそれが良いところと課題として整理されていました。

良いところとされたものには、まず第一にきれいな水やそこに住む生物達が豊富なことです。第二には住民の人間らしさがあります。住民の間の絆が強く、祭などの伝統文化がしっかりと守られていることです。

次に課題として述べられているのは、こうした良いところが最近、失われつつある、ということでした。何とかして食いとめねばならない、と地元の人たちは言っています。

それと、もうひとつ別の課題として、新住民と旧住民の間のつながりの弱さが述べられていました。

2. もうひとつの宝物

学区からの意見としてはあまり大きくは出てこなかったのですが、私は個人的には、守山の弥生遺跡は、もうひとつの大きな宝物ではないかと考えています。下之郷遺跡、伊勢遺跡はすでに国指定史跡になりました。国がこれらは極めて重要な遺跡だから保存する必要があるとあって、特別な予算措置を行った所です。こうした国指定史跡は滋賀県には3か所しかありません。そのうちの2か所が守山にあるのです。これは大変なことです。

守山には上の2つ以外にも服部遺跡、下長遺跡という、やはり国指定史跡級の遺跡があります。弥生時代に関するかぎり、守山は日本の中心なのです。これは、私達が持っている大変大きな宝と考えねばなりません。

3. 50年先の守山

実際のプランを立てる時には、私達は50年先の日本のことを見据えてこれを前提にする必要があります。50年先の日本は私達の想像を絶するものになりそうです。まず第一に、人口が今の半分になっていそうです。経済規模も縮小しているでしょう。今までは人口も経済も右肩上がり成長してきました。私達は、それに慣れすぎていて、ついつい計画もそういう線で立ててしまいそうです。しかし、

これは、大きな間違いなようなのです。

最近では、「いくつもの日本」ということがさかんい言われはじめています。今までは一団になって伸びてきた日本ですが、これからはそうはいかない。それぞれの風土と伝統を生かした所だけが生き残り、本当の意味での幸福の社会を作れるのだ、という考え方です。ナンバーワンではなくオンリーワンの社会が結局は生きのびるということです。

こうなると、活性化というの、その中味をよく考えてかからねばならないのではないかと。そんなふうに私は思うのです。

4. 問題を少し整理する

前回の会議で河野委員が、行政のやるべきことと、地元のやるべきことがあって、それらは車の両輪のようなものだ、と発言されました。それに触発されて、私も自分なりに少し問題を整理してみたいと思います。

a) 歴史資源、旧住民、地元力

守山では、この組み合わせが、しっかりと現存しています。この事実は大切にしなければならぬと私は考えています。村の祭り、神社や寺の行事、中山道あたりの街並み。これらは守山の宝ですが、これらはそこに住み続けてきた人達が育ててきたものだし、これからも、その人達の手で守り続けてもらわねばならないものだと思います。ここでは地元力が極めて大きな力を持っているのです。

河野委員は“中州は最もみじめな学区” / “だが、そこには無数の希望の芽がある。”といわれました。私も全く同感です。中州学区や玉津学区など、田園部は歴史資源 / 旧住民 / 地元力の宝庫だと思います。50年後の守山を考える時、この力は絶対に忘れてはならないものだと私は思います。40年以上前に、守山市は「田園都市守山」の旗じるしをあげましたが、これは正しかった、と考えています。

b) 生態資源、新住民、行政力

やや短絡的な見方になりますが、新住民は歴史資源よりも生態資源に適合性が高いと思います。地域の伝統は時に排他的です。そういうことを考えると、新住民と旧住民は適材適所、賢い住み分けがあってもよい、と私は考えます。

生態資源の保全、活用に関しては行政の関与が望まれます。生態保全の工事などでは、集落単位などでは対処しきれないような大仕掛けなものが多いからです。

行政力でもってしかできないような仕事は他にもあります。例えば、医療関係や交通関係の仕事などはこれです。

河野委員のいわれる車の両輪の考え方はたしかに必要なのです。

c) 「でっかい夢」

住みよい町、美しい町を作るためには、今までに私達がやって来たことを引き続いて行なうことは、勿論、必要なことです。しかし、私には、それに加えて、「で

っかい夢」にも挑戦したらよいのではないか、と考えています。それは弥生遺跡を生かして、この守山を日本の中心にする、という夢です。より正確にいうと、こういうことです。「いくつもの日本」の時代を先取りして、「近江型の邦(クニ)」の創出を図ることです。この守山はその邦の中心、少なくとも精神的中心、になることは間違いありません。それを狙うのです。

d) 守山のベースマップ

以上のことを考慮に入れて守山のベースマップを作ってみました。3地区とそれをつなぐネットワークということになるかと思います。次の通りです。

3地区

- イ) 中央にある田園区
- ロ) 医療施設などの整った市街地区
- ハ) 美しい琵琶湖と湖岸地帯

遺跡ネットワーク

服部遺跡／下之郷遺跡／伊勢遺跡／下長遺跡

以上

今回の会議では守山について全然知らないことに改めて気づかされました。各学区別から上がってきた資料を理解するのも大変でした。よく知らない後ろめたさはあると思いますが、会議後思ったことを書かせていただきます。

■ 人と人の繋がりの問題

隣組があるような田舎にも、隣に誰が住んでいるかも知らないようなマンションにも住んでいたことがあるのですが、今回の資料にもありましたが係わり合いが強すぎると負担で他から入りづらい、希薄だと不安になるというのは理解出来ます。つまり、ほど良い程度が理想。具体的にするのは難しそうですが。

子供がいるとその繋がりでちょうど良い感じがします。単身者、高齢者の方は何かないと繋がりにくいかもしれません。

また、いろいろな人がいるのも確かなので、このように自治会で「希薄だ、強すぎる」と考える状態が続けられればそれで良いのかも。

■ その地域の特徴にあった将来を見据えること

各学区の方々からも出ていたように、その地域の特徴を再確認した上で将来どうして行くかが大切だと思います。その中で一つ気になったのですが、市街化調整区域が人口増加を妨げていることが挙げられていました。人口が減少していく対策は必要だとは思いますが、田畑がなくなり自然がなくなり宅地化され他の地域と変わらなくなってしまっはもったいないと思います。田畑がある風景を生かすことを考えていただきたいと思います。

私ごとですが、先日、実家（旧能登川町の農村地帯）に帰ったとき田んぼの真ん中に農業用倉庫が建っていました。その上、電柱がずらっと。。。田んぼが広がり、内湖のヨシが茂り、奥に山並みがある個人的に気に入っていた風景だったので非常に残念でした。倉庫を建てた方も他に田畑を持ってられたので他の地でも構わなかったと思われます。たまたまそこに建てたのだと思います。

こういったことが起こらないように、今回各学区で田園風景や山並みの風景など出ていますが、その情報はみんなで共有している良いと思います。何気ない風景の情報を集めることも必要かも知れません。また、青地の開発もこういったことには注意して進めていただきたいと思います。

以上

日下山 靖幸

今回言い足りなかったことなど、ご意見・ご要望があれば自由にご記入ください。

(みらい政策課)

オムロン全体会議も終了アタリとそれぞれ自然や歴史ある伝統文化が多くあげられているが他府県から守山に行きにくいヒット商品が見当たらない。日本一の母なる琵琶湖を生かして是非守山に行きたくぬる何かが必要では。

北玄肉に存在するヒエリが々々、秋リニューアルアップに当たり人と引き寄せイベント会場を返つても一流企業が継承されることでもありヒット商品を考へ取組んでほしいと思う。肉由圏域又府県の名産品は知名度が低く長年大敗で通る者との滋養といえば参根・長決 守山は何かの他府県よりclient と呼ばれたいなれらると思う。

おなまえ 速野孝正 山岡 祐二

守山市政策調整部 みらい政策課
TEL:077-582-1162
FAX:077-582-0539
メールアドレス:miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

10月3日開催 第二回全体会議意見

1、<会議全体に関して>

- A>全体会議での趣旨がはっきり委員メンバーに落とし込みできていないのではないかと。
- B>全体会議としての内容にしては、各地域の発表会のように感じました。各学区における課題解決を目的とし総合的な守山市の活性化を目指すのであれば1会議に対しての報告内容がまとまりきっていない。
- C>守山市全体の活性化に取り込む会議であれば、参考資料として県内他市並びに他府県の成功事例等の資料があればなおいいのではないかとおもいます。
- D>守山市全体の活性化を市で取り込むのか、各学区の活性化を市で取り組むかの方向性の位置付を明確にして頂きたい。

2、<内容に関して>

- A>学区ごとの環境によっての問題点は存在して当然である。学区ごとの会議で意見を吸い上げたのであれば、市役所担当課の見解を述べた中での全体会議を行って頂く方が、より効率的な内容を議論できるのではないかと。
- B>1・Bに関しては、次回の会議までに各学区での問題点、改善点が3項目報告されるという事で納得致しましたが、全ての学区の改善点を市としてどのように取り組んでいくかの方向性の説明を頂きたい。
- C>会議中の発言時間が少ない中、報告・発表が多いので検討する側としての見解が理解できないまま時間が過ぎるのは、大変もったいないようにおもう。
- D>今回の企画に取り組むにあたり守山市としての意向をもっと強調するのはできないのか？また、その意向に対して各学区での意見収集はできないのか？

委員 西田裕美

425.10.21

「守山まるごと活性化プラン」に対する意見など

1. 歴史資源と神社仏閣をプレーンに守山のPR→賑わい→活性化の実現
2. ホタルや水(河川)などの自然の資源を、残そうとする意識が高い。つまり学区ぐるみの取り組みと活動、行政の支援。
3. 地域(学区)で継承されている、伝統的な祭りの維持→町おこし→活性化
4. 3項は各学区・自治会で継承運営に、人手などによりカゲリが見え隠れしているのではないか。活性化プランによる行政の支援・自治会での継承には限界を感じられているので行政の支援や各学区に範囲を広げて取り組むことの方向性が必要ではないか。
5. 各学区からすばらしいプランがでていますが、市長さんのお話で3~5学区から絞込みをしてはとの意見でしたが、そうするとテーマが多数になり、優劣をつけて市全体で10テーマ位まで厳選し取り組みしてはどうだろうか。

何れにせよ各学区(学区検討委員会の方向性)の地域性を踏まえた取り組みを中心に一人でも多くの市民が参画できるプランを計画・実行・改訂(P、D、C)を進めることが重要となるのでは。要するに何事も実行してみないと机上のプランと化す。このことは行政にありがちな成功、失敗にかかわらず、なんとなく継続する事なく、なぜ、なぜ、なぜを繰り返して市民が納得できるプラン・施策が必要と考えます。失敗は成功のもと。

伊勢町 竹村 昇

平成25年10月23日

守山まるごと活性化プラン検討委員会 全体会議 委員名簿

(敬称略)

1	大崎忠男	商工会議所 会頭
2	河野伊一郎	岡山大学 名誉教授
3	小西由美子	公募市民(吉身4丁目在住)
4	杉田英子	JAおうみ富士 女性部
5	高野隆男	河西学区長(川中自治会)
6	高谷好一	京都大学 名誉教授
7	竹村 昇	公募市民(伊勢町在住)
8	谷口喜久	玉津学区長(赤野井自治会)
9	千代雅人	守山学区長(千代自治会)
10	中明子	NPO法人 びわこ豊穰の郷
11	西田裕美	青年会議所
12	西村梯子	守山の女性たちによる女性の交流会 発起人(スペースウイン)
13	濱崎 一志	滋賀県立大学 地域文化学科教授
14	日下山靖幸	公募市民(小島町在住)
15	藤井絢子	環境省中央環境審議会委員(NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)
16	舟橋和夫	龍谷大学 コミュニティマネジメント学科教授
17	布野修司	滋賀県立大学 副学長
18	本城眞佐一	中洲学区長(立田自治会)
19	三品長一郎	小津学区長(三宅自治会)
20	三宅和夫	吉身学区長(グラント・マゾン守山自治会)
21	村上瞳	企業経営者
22	山岡龍二	速野学区長(ネオ・ペラヴィータ守山)
23	葭本勝利	企業経営者